

1 外国語科の目標

6年間を通して、英語に触れることにより国際理解を深め、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による言語活動を通して、国際社会の中で生きるためのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

2 各学年の指導時数(中心とする活動)

- 1・2年…年間20時間 (聞くこと・話すことを中心に)
- 3・4年…年間35時間 (聞くこと・話すことを中心に)
- 5・6年…年間70時間 (聞くこと・話すこと・読むこと・書くことを中心に)

3 めざす児童の姿

- ①英語による活動を通して、言語や文化の違い等に気づき、理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けようとする児童
(→知識・技能)
- ②6年間を通して、身近で簡単な事柄について英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとする児童
(→思考・判断・表現)
- ③英語を通して、言語や文化に対する理解を深め、積極的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童
(→主体的に学習に取り組む態度)

4 各学年のテーマ・目標・学習内容

(1) 1・2年

- ◇テーマ：「英語にふれ、楽しむ」児童
- ◎目標：英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による体験的活動を通してコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。

○学習内容：歌やゲームなど身体を使った体験的な活動の中で、英語に触れ、楽しむ内容。

(2) 3・4年

- ◇テーマ：「英語に慣れ、親しむ」児童
- ◎目標：英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと・話すことの言語活動を通してコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。

○学習内容：歌やゲームなど身体を使った活動を中心に、英語に親しみ、意欲的にコミュニケーションを図る力を育てる内容。簡単な表記については、ローマ字を読んだり書いたりする。

(3) 5・6年

- ◇テーマ：「英語に慣れ、英語を使う」児童
- ◎目標：外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。
(文部科学省小学校学習指導要領)

○学習内容：※5・6年の教育課程は、教科書の年間指導計画に準ずる

5 評価の観点と各学年の目標

評価の観点	各 学 年 の 目 標	
知識・理解	1・2年	言語や文化について、英語による体験的活動を通して、日本語との違いや言葉のおもしろさ、に気付くようにする。
	3・4年	英語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と英語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
	5・6年	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	1・2年	英語による体験的活動を通して、英語の音声やリズム等に慣れ親しみ、英語で伝え合う力の素地を養う。
	3・4年	身近で簡単な事柄について、英語で聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
	5・6年	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	1・2年	英語による体験活動を通して、相手を意識して、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
	3・4年	英語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
	5・6年	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

※ 5・6年は、「外国語科」の教科となり学習指導要領の目標及び内容で行う。

6 各学年の領域別の目標

		5つの領域別の目標		
		小学校1・2年	小学校3・4年	小学校5・6年
聞くこと		<p>ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物について聞き取るようにする。</p> <p>イ ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物について基本的な表現の意味が大まかに分かるようにする。</p>	<p>ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。</p> <p>イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようになる。</p> <p>ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかがわかるようになる。</p>	<p>ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取るきことができるようになる。</p> <p>イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。</p> <p>ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。</p>
読むこと			<p>ア 活字体で書かれたアルファベットを識別し、その読み方を発音すること</p>	<p>ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようになる。</p> <p>イ 音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようになる。</p>
話すこと・やり取り		<p>ア 基本的な表現を用いて挨拶などを作ったり、簡単な指示に応じたりするようになる。</p> <p>イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようする。</p> <p>ウ サポートを受けて、自分や相手のことについて簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に応えたりするようになる。</p>	<p>ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示を作ったり、それらに応じたりするようになる。</p> <p>イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようになる。</p> <p>ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に応えたりするようになる。</p>	<p>ア 基本的な表現を用いて指示、依頼を作ったり、それらに応じたりすることができるようになる。</p> <p>イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考え方や気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようになる。</p> <p>ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようになる。</p>

話すこと・発表	<p>ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようとする。</p> <p>イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようとする。</p> <p>ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら自分の考え方や気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようとする。</p>	<p>ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようとする。</p> <p>イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す能够在するようとする。</p> <p>ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物など見せながら自分の考え方や気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようとする。</p>
書くこと		<p>ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようとする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようとする。</p> <p>イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようとする。</p>

7 実施にあたって

留意事項	
指導体制	<p>○学級担任とALTによるTT授業 ／ 外国語科専科とALTによるTT授業</p> <p>○学級担任と英語指導補助によるTT授業</p> <p>○学級担任単独</p> <p>○外国語専科単独 など</p> <p>◆学級担任の役割 指導計画によるT1の役目を果たす。学級の児童の様子を観察しながら、評価を行ったり、計画の修正等を行ったりする。</p> <p>◆外国語科専科 指導計画によるT1の役目を果たす。児童の実態把握のために情報交換を密にし学級担任と連携を図りながら、専門的な知識と指導技術をもって授業をし、評価をする。</p>

	<p>◆ALTの役割</p> <p>児童が触れる初めての英語は、是非ともネイティブのものであります。ALTの大きな役割は、ネイティブな発音を聞かせることにあり、また、ロールプレイ等での学級担任とのやりとりをメインとして考える。</p> <p>◆英語指導補助の役割</p> <p>児童の学習活動の充実を図るために、指導者T1及び指導に関する計画、準備等を補助する。</p>
評価方法 (1～4年)	<ol style="list-style-type: none"> 1 各単元で評価規準を設定し、それにより評価を実施する。 (各単元では、総括的に評価をし、評価の方法は、児童の自己評価、教師による観察等による。) 2 通知表への記録：評価（3段階） 3 指導要録への記録：評価（A・B・C） <p>※高学年は、文部科学省の教育課程と評価に準ずる。</p>
指導について	<ol style="list-style-type: none"> 1 全体計画、年間指導計画について 全体計画、各単位時間の指導計画を確認し、計画的な運用を図る。 2 目標、評価等について 全体の目標、各学年の目標、評価等についてもよく把握をして指導に当たる。 3 単位時間の指導計画について（記載内容） <ul style="list-style-type: none"> (1) 1段目に「単元名、ページ数等」を記載 (2) 2段目に「本時の目標」を記載 (3) 3段目に「基本文や語句」や「classroom English」：本時の学習の中で使えそうな表現を記載 (4) 4段目に「を目指す子どもの姿」を記載 (5) 学習過程について 「ウォームアップ warm up」「めあてを知る can do」「活動 activity」「まとめ review」で構成されている。 (6) 授業において「Can do」（めあて）と「Review」（まとめ）を英語表記で板書する。 (7) Can doでは、めあて（ゴール）を知らせ、それを達成するための学習の流れを知らせ、児童に学習の見通しを持たせる (8) 活動は、児童の知的好奇心が高まるような内容、必然性のある内容となるよう計画する。 (9) Reviewでは、めあてを意識させて自己評価カードで振り返りをさせる。気付きや感想等を発表させ、めあてを振り返る時間を確保するとともに、次時の予告を行う。 (10) 評価の欄には評価基準Bを示す。 (11) 各単位時間の学習について、指導の方法や内容、児童の反応等において気付きを記入する。授業の感想・意見等でもよい。 (12) 指導にあたっては、4つのポイントを意識しながらコミュニケーション活動や言語活動に取り組ませる <ul style="list-style-type: none"> ① smile（笑顔で） ② eye contact（相手の目を見ながら） ③ clear voice（はきはきとした声で） ④ gesture（身振り手振りで）